

※『ジャイモン』ネパール語で「主(神)を讃美しましょう」の意

今ネパールに求められていること

4月25日と5月12日の大地震によって、2015年5月19日現在、9,000名を超える人命が失われ、負傷者は16,808名に達しました。教育関連被害としては、12,550の教室が破壊され、4,070は破損がひどく、授業不可能な状況で、国連は、約百万名の子供たちが登校できない状況であると発表しました。ネパール政府は、教育施設に必要な財政の1.3%しか確保できず、自力での復旧には限界があることを明らかにしています。

4月25日以後、無期限の休校状態にあったネパールの各学校は、5月31日からの授業再開が発表され、現在、各校は教育部の安全診断労務チームによる安全診断を受けているところです。NHAのあるマチェガウン地域も、政府学校のナラヤンジョン学校と、ジュンデビ学校が今回の地震で破損、使用禁止となりました。

NHAは、教育部の第一次安全診断の結果、2棟11教室に被害がありました。

今すぐに補修ができないのは、余震発生による二次災害に備えて、ネパール政府が7月中旬まで3階以上の建物を一切工事ができないように指示しているためです。

そのため大部分の住民や学校が竹とタンで臨時のスペースを確保している状況です。

今後、必要になってくるのは、7月中旬以降に本格化する建物修理のための人件費と、資材調達費です。特に資材は価格暴騰が予想されており、これらの部分でさらに多くの経済的支援が必要になるだろうと



思われます。

また、5月末から雨期に入りますが、古い建物の二次崩壊による危険と、それによる財産損失が予想されています。危険建造物に対する措置が必要です。

小型の懐中電灯を子供たちに支給すれば、夜道を歩くと、大きな助けとなりそうです。雨期に入ると腸チフスやコレラのような伝染病の深刻化が予想され、飲み水や衛生管理にも準備が必要な状況です。1リッターほどの小さな水

筒を配布することができれば、一度沸騰させた水を保管することができ、子供たちには有用でしょう。

また何よりもストレスによる精神的疾患も急増することが予想されます。心理的安定のための、さまざまなプログラムも必要な状況です。多くの人々が現在、2度の大地震によって、家でまともに過ごすことができず、テントや、建物の1階部分で寝泊まりする状態です。現在、蚊が増えつつあり、現地で蚊帳を手配してあげるのも大きな助けとなるように思います。また医療奉仕による二次感染予防と、外傷、皮膚病等の治療も大きな助けとなるでしょう。

何よりも深刻なことは、ゴルカやシンドゥーパルチョークのような地震発生地をはじめ、カトマンズ郊外の山岳地帯には道がなく、いまだ救援物資が届いていない状況です。

それらの地域には臨時キャンプが作られているのですが、雨期の安全確保、食糧供給をどのようにすればいいのかも今後の大きな課題です。しかし、これらの地域は接近すら難しく、政府軍や国連のような救援団体に任せる以外に方法がない状況です。

意外なことに、米や、その他食料品の価格暴騰はまだ見られません。

地震被害に遭ったネパールの人々には、今、希望がありません。経済的支援だけでなく、温かい心の支援が切実に求められています。

NHA相談役 崔根敏 (チェグンミン)

NPO法人 ブリッジズ・フォー・ネパール (BFN)

事務局：〒569-0811 大阪府高槻市東五百住町3丁目1番4号 (鬼頭宅)

Tel/Fax 072-695-0513

URL : <http://www.npo-bfn.org>

目次:

今ネパールに求められていること	1
震災後のNHAの状況報告	2
震災後のBFNの生徒たちの報告	2
楽しかった近高、新たな夢に挑戦	3
留学生弁論大会に出場して	3
NHA訪問記(1)(2)	4
子供たちの日常生活	5
日本語教育の課題	6
新中期目標	6
質問箱	7
ネパール豆知識	7
長期ビジョン積立金	8
2014年度決算報告	8
新規に支援される子供たち	8

ハイライト:

今ネパールに求められていること (1ページ)

震災後のNHAの状況報告 (2ページ)

震災後のBFNの生徒たちの報告 (2ページ)

楽しかった近高、新たな夢に挑戦 (3ページ)

震災後のNHAの状況報告

破壊的な地震が2015年4月25日に起こり、ネパールは大きな被害を受けました。多くの家々、歴史的建造物が倒壊しました。多くの学校も被害を受けました。それにも関わらず、NHAの校舎は壁にいくつかの小さなひびが入った以外は大きな被害がありませんでした。49教室のうち、職員室と11教室の壁にひびが見つかりましたが、メインの校舎は良い状態です。



NHAの生徒たちの詳しい状況は学校が再開してから分かるでしょう。5月31日に学校を再開する予定です。

私たちはいま頻繁にNHAとNHAの安全のために議論をし、計画を立てています。

第一段階として、校舎をみてもらうために民間の業者から技術者に来てもらいました。NHAのメインの校舎は安全で、現状のまま授業を行うことに危険はありませんが、他の建物は補強をする必要があるそうです。

民間の業者の報告は政府から承認されないかもしれません。それ

ゆえ次の段階として、教育省から政府に認可を受けた技術者を招くことを検討しています。私たちは彼らの指示に従います。

学校が閉校しているうちに、生徒の安全を確保するために基本的な準備をしています。

階段や他の必要と思われる場所に柱を増やし、強化します。学校の裏手に、しっかりしたプレハブで11教室を作る予定です。また非常口を作り、学校がある時間帯は非常口を開けておきます。

NHAは、被災し、家が倒壊したために本や服、他の文房具などの物品を失ったNHAや近隣の学校の生徒たちに救援物資を提供しています。

そしてNHAの卒業生が地震の被災者、特にテント暮らしで肉体的、精神的に影響を受けた子供たちのためにレクリエーションのプログラムの開催を準備しています。私たちは彼らのプログラムを承認し、全力で支援します。



NHA校長 ピーター・マハラジャン

震災後のBFNの生徒たちの報告

私たちの地域はカトマンズ溪谷の南西部に位置しています。BFNの奨学金を頂いている生徒のほとんどはこのマチェガウン近郊から来ています。カトマンズ溪谷以外から来ている生徒たちの幾人かはカトマンズの賃貸住宅で暮らしています。

これらの地域は2015年4月25日に起こった地震とその後の度重なる余震によって深刻な被害を受けました。家が全壊した生徒もいますし、部分的に家が被害を受けた生徒もいます。家だけでなく、本や制服を失った生徒もいます。生徒たちはネパールに起こったこの恐ろしい地震とその結果に動揺しています。

地震の後、PENを代表して、家庭訪問を行いました。BFNのすべての生徒の家を訪問し、彼らの現状をまとめました。BFNの生徒が一人も亡くなっていないことを感謝しています。NHAで学ぶすべての生徒が無事です。家庭訪問後、110名のBFNの生徒のうち、23名の生徒や家族が深刻な被害を受けたということが分かりました。残りの生徒は、厳しい状況にあるとはいえ、それ以外は普通にしています。

PENは、文房具などを支給して、被災した生徒たちを励ましたいと考えています。というのは、彼らは本やノート、ペンなどを失ってしまったからです。

また今後、精神的にダメージを受けた生徒たちに積極的にカウンセリングを行っていく予定です。



PEN代表 ビル・バドル・ラナ

楽しかった近高、新たな夢に挑戦



初めて、留学することが決まった時すごく不安や心配がありましたが、今、振り返って見ると留学して本当に良かったと思います。日本語での授業についていけるか、友達と仲良くできるか、異文化に馴染めるかすごく不安でした。でも実際に入ってみたら、私が考えていたことと全然異なりました。先生方や友達が私を心をこめて歓迎してくれました。いつもわからないことや困ったことがあったらすぐ教えてくれる先生方や友達に会ってすごく嬉しくなりました。

高校の2年間、今振り返って見るとすごく早かったと感じます。高校で、毎日友達とお弁当を食べたこと、文化祭でお面の店を開いたこと、体育祭、英語のプレゼンテーションや先生の特別な日本語クラスやまたホームカミという番組

の取材、全部がすごく楽しかったです。

高校でいいことがいっぱいありましたが、当然しんどいときもありました。異文化、異言語の中で友達と時々コミュニケーションをとれなくなったとき、すごく寂しかった経験もありました。また、大学の進路が決まる前、とても不安があつて、落ち込んでしまった時期もありました。でも、いつも先生方や友達やホストファミリーやBFNのサポーターたちや教会の人達が私のことを応援してくれたので、最後まで頑張ることができました。また、先生方のおかげで、無事に第一志望の薬学部合格することができました。

大学生活の抱負を簡単に言うと、勉強だけではなくて、社会に出たときみんなと対応できる技術を身につけることです。そのために、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を学びたいです。また、部活に入って友達や先輩たちと仲良くしながら、日本のことや文化や人間関係も学びたいです。

勉強が本当に大変ですが、私はできる限り最後まで頑張ります。これからも応援よろしくお願いします。



近畿大学薬学部創薬学科 1学年 サリタ・シュレスト

留学生弁論大会に出場して

2015年1月17日(土)、第22回「高校留学生の日本語による体験発表会」(大阪府高等学校国際教育研究会主催、読売新聞大阪本社など後援)が行われました。

私も近畿大学附属高校の留学生として、その大会に参加しました。アメリカ、ブラジル、フランス、インドネシア、ドイツ、イタリア、スイス、ニュージーランド、カナダ、タイ、中国、ネパールからの留学生たちが、日本語で体験発表をする機会でした。



学校で担任の先生からこのスピーチ大会のことを聞いた時、私はスピーチが苦手なのでできないと思いました。しかし、先生とホームステイ先の家族の応援と助けで頑張りました。

留学の経験についてのスピーチを書きました。日本へ来て自分が習ったことや経験したことについてです。

スピーチの内容の文章を一つ例に挙げます。「私は日本に留学して、とてもすばらしい言葉を一つ教えてもらいました。『やってみなはれ』」チャレンジすることが大事だということです。スピーチ大会に参加したことは、『やってみなはれ』の一つの実現だったと思います。

いろいろな国からの留学生たちの留学の経験も聞き、楽しい時間を過ごすことができて本当にうれ

しかったです。

初めての経験でしたが、とてもいい経験でした。これからも日本の生活を頑張っていきたいと思います。



近畿大学附属高校 2学年 プラディプ・マハラジャン

NHA訪問記(1) ネパールでの幸いな時間

昨年12月23日から30日までネパールに行きました。行く前からNHA訪問をとても楽しみにしていました。授業を通して4年生から9年生の各学年2クラスずつ、計12クラスの生徒たちと顔を合わせることができ、その授業の中で、日本の小学生、中学生の様子や彼らの学校生活について紹介しました。どのクラスの子供たちも積極的に授業に参加してくれていることがよく伝わってきました。質問をなげかけたり、グループ内で一生懸命話し合いをするなど、素直に興味を示して新しいことを吸収しようとする姿勢に励まされ、私自身にとって学び多き時間となりました。学校に通う楽しさ、そして勉強できることへの感謝…学校に行けることを当たり前と感じてしまう環境では忘れてしまいがちですが、子供たちはその思いを持ってこの教室に集まって来ているのだと感じました。日本のように電気が明るくついていたたり、スイッチを入れれば冷暖房がつく教室とは全く違う環境です。けれども、授業に行く度に、キラキラと輝いた目をこちらに向ける子供たち。笑顔が絶えること



里子のサミル君と

ののない彼らの姿を忘れることはできません。今回の訪問において、私にはもう一つ楽しみにしていたことがありました。それは、この学校で学んでいる里子のサミル君に会うというものでした。これまで写真や手紙を通して5年間成長を見てきた彼と、実際に会って言葉を交わすことができたのは大きな喜びでした。今は8年生（中2）になっており、シャイな部分も見られましたが、元気そうな姿を見ることができてとても感謝でした。離れた地にあつて頻繁に会うことはできませんが、再会できることを願いつつ、サミル君のことを覚えて祈り、応援していきます。



NHAでの授業風景

賛助会員 星野ゆり

NHA訪問記(2) 念願 叶って

ネパールとの出会い—それは高校時代のクラブ活動「古切手運動—ネパールに結核ワクチンを」でした。ジャイモシ前号の岩村昇氏（ヒマラヤの山奥のタンセン病院で医療ボランティア）に協力するものです。

当時吹き荒れた学生運動・社会運動に展望を見出せなかった私は、岩村氏のミッションで働くことを決断、渡航準備を進めたものの、その時は道が開かれませんでした。

時は巡り、今度はBFN等を通して、家族と共にネパールと関わる機会が訪れました。そしてこの度、数年来続けてきたNHAの里子たちに会うため、末娘と共に、留学生サリタの一時帰国に合わせて、念願のネパール訪問が実現することとなったのです。



カトマンズ空港でNHA相談役のチェ氏が迎えて下さり、あのタンセンに近いノウォルパラシ（カトマンズから西へ200km）での結婚式のお誘いを受けた時は大感激！ネパールの大自然と素朴な人々と触れ合うことができました。

何にもまして、NHAで会ったシャイでかわいい里子たち。お家にも招いて下さり、真心一杯のおもてなしを受けたのです。NHAに二度目に立ち寄った時、里子のリヤが走り寄ってきて、英語の手紙とおばあちゃんの手作りポーチをプレゼントしてくれました。その手紙には「この機会を与えて下さった神様に感謝します。」と書いてあり、感動で胸が熱くなりました。

今回の痛ましい大地震で、駆けつけたい思いが募る中、ネパールの再興を心より祈らずにはおれません。



賛助会員 宮崎真理子

子供たちの日常生活(11)

子どもの名前 : スメダ シグデル
お父さんの名前 : スマン シグデル

学年 : 5年生
お父さんの仕事 : 会社員(バッテリー会社)

スメダ シグレルはNHAで学ぶ5年生です。彼女は長女で、弟が1人います。幼稚園の時からNHAに通っています。彼女は優秀な生徒で、良い成績を修めています。

スメダは朝早く6時に起き、夜9時に寝ます。朝は勉強や読書をしたり、学校の準備をしたりして時間を過ごします。学校は10時から始まり、午後4時に終わります。夕方には宿題をします。そしてしばらく弟や友達と外で遊びます。多くの時間を弟と過ごします。スメダは先生方に出された宿題をすべてします。両親にとって彼女は誠実で正直な娘です。



両親から見たスメダは私たちの愛する最初の子供です。BFNの奨学生になることができた時、彼女はとても喜んで、さらに勉強に励む意欲が与えられました。里親の方から手紙やプレゼントをいただいた時も彼女はとても嬉しうです。彼女の顔には大きな笑顔と喜びが溢れています。

スメダの夢は教師になることです。すべての子どもたちが教育を受けることができるために、そして良い国民となれるためにです。彼女は学校での



出来事を私たちによく話してくれます。彼女は記憶力がよく、新しいことをすぐに覚えることができます。新しいことを学ぶこと、特に科学に関する事柄に興味があります。彼女は家事もよく手伝ってくれます。彼女は自由時間にも家事をします。家を掃除したり、洗濯をしたりします。彼女は絵を描くこと、ダンスをすること、音楽を聴くことが好きです。



スメダの母親から感謝のことば: 家族の中で働いているのは父親だけなので、ご支援がなければ日常の出費と子どもの学費の両方のやりくりをするのは非常に難しい状況です。奨学金のおかげで今はずいぶん楽になっています。あなたの愛と親切なご支援に対し、もう一度心からお礼を言います。神さまがあなたを祝福してくださいように。



担任の先生のコメント: スメダはかわいらしい優秀な生徒です。性格がよく、学習能力も高いです。彼女は学校での学習や課題をきちんと行っています。彼女は親しみ

やすく、手助けをよくします。授業にはきちんと出席し、積極的に参加しています。正直で誠実な女の子です。新しいことを学ぶことに興味を持っています。彼女は先生方に自分の興味があることについて必ず質問します。彼女が明るい将来を切り開いていくことを期待しています。



日本語教育の課題

2014年12月から2015年3月までNHAに日本語ボランティアとして行ってきました。

ネパール訪問は3回目、日本語ボランティアとして長期滞在は2回目でした。

前回（1年前）日本語クラスは2クラスでしたが今回は1クラスに縮小されていました。現在、日本語クラスの生徒は8～9年生のみ。早く授業の終わる5～7年生のクラスは教える先生がいないという理由で閉鎖されました。日本語の勉強がしたい子供がいるのに残念です。

しかし、現在NHAで日本語を教えている現地の先生はNHAの英語の先生でもあり、自分の授業も1日に6コマある中で全部が終わってから日本語を教えているので、負担が大きいです。また先生自身の日本語能力が十分ではない中、どの教材を使うのか、何をどう教えるのか



かなどわからなくなる問題もあり、今後しっかりとしたカリキュラムの作成が必要だと思いました。日本語クラスの子供たちは全員が、ひらがな・カタカナは全て理解していて聞き取り・書き取りも十分できるレベルです。日本の生活・文化・本・音楽などに興味があり、日本語クラスで学んだことを自分のクラスの友達に教えたり、家庭で話したりしています。

日本語クラスに参加したい子供たちはたくさんいますが、放課後を使つてのエキストラクラスなので他の勉強が忙しい、家庭の手伝いをしないといけないという理由で参加できず、また日本語クラスにいても同じ理由で辞めてしまう子供たちもいます。子供たちのモチベーション維持のために、毎回の定期試験に日本語を入れる、日本語ボランティアが続けて来てほしいなどの意見がありました。

日本語クラスの子供たちのうち約半分がBFNのサポートを受けています。彼らはそのことを本当に喜び感謝していて、いつか里親と日本語で話したい・日本に行きたいという強い思いを持って勉強しています。またサポートを受けていない子供たちもネパール向上のために文化交流をしたい、ネパール語と日本語は文法が似ているから興味がある、日本語の勉強が楽しい、と熱心に勉強しています。

彼らの思いに応えるためにも、まずは教える側がしっかりとビジョンを持ち、共通の目標を持つことが大切だと思いました。



日本語ボランティア 藤原 愛

新中期目標（5年計画）

2015年3月31日現在

（単位 円）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	備考
子供支援目標数	85名	90名	105名	110名	115名	
（現被支援者数）	85名	100名	103名	110名		
スポット支援目標額	500,000	500,000	900,000	900,000	900,000	震災支援を除く
（現支援収入額）	764,000	1,262,800	936,500	952,000		
（現年度支援額）	411,148	561,700	300,000	501,158		
留学生支援金		300,000	594,800	629,500		
（支援繰越額）	958,995	1,360,095	1,546,813	1,397,655		

質 問 箱

質問:「里子の様子を『成長の記録』で知ることができ、とても楽しみです。里子が大きくなり顔が変わってきます。また将来の夢も毎年変わって、子供らしくて本当に嬉しいです。ところで、NHAを卒業した子供たちは、どのようになるのでしょうか。日本の高校のようなところに行くのでしょうか、それとも、働くのでしょうか。卒業後のことを教えてください。」

回答:ご支援に感謝します。「成長の記録」を楽しみにしてくださってありがとうございます。

さてご質問の件ですが、NHAを卒業した子供たちは、全員上級学校であるカレッジ(*)に入学しています。

少しネパールの教育を説明します。初中教育は10年です(NHAはこれにあたります)。卒業後にSLC試験を受けます。この試験に合格しないと上級学校に行けません。上級学校は、日本の高校2～3年に該当するカレッジと呼ばれるもので、日本のカレッジとは違います。カレッジは専門制です。化学、情報処理、マネージメント、英語といった分野に分かれており、普通科に該当するものはありません。カレッジを卒業して3年制の大学に入ります。幸いNHAの卒業生は全員、とても優秀な成績でSLC試験に合格しています。NHAの卒業生は、カレッジを卒業してから大学に進学する者が多いです。大学を卒業しないと良い就職がありません。問題はここからです。大学を卒業しても良い就職先を見つけるのは困難です。しかし、カレッジを卒業すれば、小学校の先生にはなれます。

カトマンズは、都会ですので、教育程度は高いですが、地方はそうではありません。地方は親の教育関心が低いのと貧困のため、10年制の学校すら卒業しない子供が多く、また、SLC試験に合格することは更に難しいです。これがネパールの現状です。

支援を頂いている子供たちは、とても優秀な子供たちばかりです。おかげさまで経済的なことを心配せず、環境の良い私立学校NHAで一生懸命勉強しています。

BFNは、更に貧しい地域の子供たちにも教育の機会を提供するために、支援の幅を広げたいと思います。これからもご支援よろしくお願いします。

*カレッジ以外にもいろいろな表現があります。10+2(テンプラスツー)やセカンダリースクールと言ったりします。

ネパール豆知識(これって知ってた?)

ネパールって地震が多いの?

ネパール中部で4月25日午前11時56分(現地時間)、マグニチュード7.8の地震が発生し、首都カトマンズなどで多くの建物が倒壊し、死者も1万人を超えそうです。

さて、ネパールは、海側のインド・オーストラリアプレート(岩板)が陸側のユーラシアプレートの下に沈み込むプレート境界に位置し、周辺のインドなどと共に地震が多い地です。過去にも次のような地震がありました。

ビハール・ネパール地震 1934年1月15日午後2時13分(現地時間)に国境に近いネパール東部で発生したマグニチュード8.1の地震です。

当時の文献によると、カトマンズ盆地における被害について、建物の倒壊により大量の粉塵が舞い上がり昼間でも薄暗かったこと、狭い道路が避難の障害になったこと、数千の人々が建物の下敷きとなり死亡したこと、一部で火災が発生したが局所的ですぐに鎮火したことが記されています。カトマンズ盆地では、歴史的な建物も倒壊し、建築物の約20%が破壊され、9,040人の死者が出たと言われています。

ウダヤプール地震 1988年8月20日、インドとの国境付近のネパールバレーでマグニチュード6.7の地震が発生し、死者709人、負傷者6,500人、被災者301,016人、全壊家屋22,000棟に及ぶ被害が発生しました。建物の被害は粘土やレンガで造られた伝統的な住宅に集中し、10万戸に及びました。死者、負傷者の半数以上は14歳以下の子供でした。

インド北東部地震 2011年9月18日18時10分インドで発生したマグニチュード6.9の地震。震源はインドのシッキム州とネパールの国境付近でシッキム州の州都ガントクの北西68km。震源の深さは19.7km。ネパール人の死者は9人でした。





2014年度 決算報告 収支決算書 2014年4月1日～2015年3月31日(単位 円)

(収入の部)			(支出の部)		
科目		収入額	科目		支出額
入会金・会費	正会員入会金	0	事業費	未就学児童への支援事業	2,421,763
	正会員会費	786,000		教育機関への支援事業	501,158
	賛助会員会費	3,230,000		(内ソーラー事業・再掲)	(194,658)
寄付金	スポット支援金	952,000		留学生への支援事業	629,500
雑収入	雑収入	256		日本における啓蒙活動費	113,111
当期収入合計(A)		4,968,256	事務費	会費収納管理費(会費引落手数料)	282,793
前期繰越金	賛助会員会費繰越金	407,522		郵送料・通信費	22,191
	スポット支援金繰越金	1,546,813		消耗品費	15,120
	留学生支援繰越金	240,322		その他	53,968
	事務費繰越金	384,648		支出合計(C)	
	長期ビジョン積立金	2,135,500	当期収支差額(A)－(C)		928,652
収入合計(B)		9,683,061	次期繰越収支差額(B)－(C)		5,643,457

貸借対照表

2015年3月31日 (単位 円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	0
現金	12,471	【固定負債】	0
預貯金		負債の部合計	0
三井住友銀行	1,565,036	純資産の部	
ゆうちょ銀行(振替)	1,082,986	賛助会費繰越金	658,357
ゆうちょ銀行	240,404	スポット支援繰越金	1,397,655
ゆうちょ銀行(定額)	2,737,000	留学生支援繰越金	210,904
楽天銀行	5,560	事務費繰越金	639,041
【固定資産】	0	長期ビジョン積立金	2,737,500
		純資産の部合計	5,643,457
資産の部合計	5,643,457	負債・純資産の部合計	5,643,457

長期ビジョン積立金

2015年3月31日現在 (単位 円)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	合 計
長期ビジョン積立金	454,500	503,500	570,000	607,500	602,000	2,737,500

新規に支援される子供たち (2014年10月～2015年3月)

氏 名	性別・学年	氏 名	性別・学年	氏 名	性別・学年
ノハ タマグ	男子・4年生				